

課 程	博士課程前期課程	コース	経済学専修コース
科 目	専門科目		
出題部門	財政学・金融論部門	問 題	問題 1

出題の意図	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中央銀行の「対話型金融政策」の意義の理解度を問う。 ・ フォワードガイダンスを通じた期待形成の重要性を理論的に説明できるかを問う。 ・ 金融政策の伝達メカニズムにおける情報発信の役割の理解度を問う。
解答例 (解答のポイント)	<p>解答のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中央銀行は、金融政策の効果を高めるために市場との信頼関係と対話を重視している。 ・ 政策金利の操作だけでなく、「将来の政策運営方針」を市場に伝えることで、期待に働きかける。 ・ フォワードガイダンス（将来指針）は、中央銀行が将来の金利方針や金融緩和の継続期間を明示・示唆する手段である。 ・ 市場との対話を通じて、中央銀行の意図を市場参加者に理解させ、長期金利や資産価格に影響を与える。 ・ 不確実性の低下や期待の安定化によって、金融政策の予見可能性と信頼性を高める。 ・ 結果として、中央銀行の政策効果がより円滑に市場へ波及する。

課 程	博士課程前期課程	コース	経済学専修コース
科 目	専門科目		
出題部門	財政学・金融論部門	問 題	問題 2

出題の意図	<p>租税制度を構築する場合の重要な原則に租税法律主義と租税公平原則の二つがあるが、そのうちで特に重要な租税公平原則をどの程度理解しているかを問うものである。</p>
解答例 (解答のポイント)	<p>租税の公平という場合に2つの公平概念があげられる。一つは税負担における水平的公平と垂直的公平である。まずこれらの概念を詳述することが解答のポイントとなる。つぎにそれぞれの公平概念がどのような制度によって実現されるかを述べる。垂直的公平は超過累進税制で実現することを述べ、なぜ単純累進ではなく超過累進なのかを説明する。一方、水平的公平については担税力という概念を説明し、所得の態様に応じて各種の所得区分が設けられていることを説明する。実際の行政ではそれら各種所得の補足率も問題になることに言及する。最後に、これら2つの公平概念のほか、現代社会では世代間公平が重要となることを述べ、世代間公平が問題とされる背景について記述する。</p>